

2) 中小河川に関する河道計画の技術基準

中小河川に関する 河道計画の技術基準 と その適用例

1

中小河川に関する近年の動向

【背景】 H18 「多自然型川づくりレビュー委員会」において、課題の残る河川改修が多いことが指摘される。



H18.10 多自然川づくり基本指針

H20.3 中小河川に関する河道計画の技術基準

縦断形状・横断形状・平面形状に関する基準

H22.8 同基準 改定

河岸・護岸・水際部の考え方について追加

2

多自然川づくりポイントブックⅢ



著 ; 多自然川づくり研究会
 編集 ; リバーフロント整備センター
 協力 ; 国土交通省

2011年10月発行

3

中小河川河道計画 技術基準のポイント（1）

計画高水位の設定	掘込河川の計画高水位は、地盤高との差をできるだけ小さく設定	
法線及び川幅	<ul style="list-style-type: none"> ・みお筋の自然環境が良好な場合は法線は極力変更しない ・流下能力の増大には原則として川幅拡幅で対応 ・河岸の自然環境が良好な場合は原則として片岸拡幅 	
横断面形	河床幅	川らしい良好な自然環境を形成するため、河床幅を十分確保
	のり勾配	<ul style="list-style-type: none"> ・河床幅が横断面高さの3倍以上確保できる場合には2割以上を採用 ・河幅が小さい場合は、河床幅を確保するため5分程度を採用
	河床掘削	<ul style="list-style-type: none"> ・川幅の確保が困難な場合には、平均的な掘削深として60cmを上限 ・掘削する場合は、みお筋等の地形を平行移動(スライドダウン)
縦断面形	<ul style="list-style-type: none"> ・床止め等の横断構造物は必要最小限の箇所に設置 ・河床掘削する場合には、現況縦断面形を平行移動(スライドダウン) 	
粗度係数	現況が良好な状況の河川では、現況と同程度の粗度係数を設定	
管理用通路	管理用通路の幅、必要性を検討	
アクセス	適切な間隔で階段、板路等を設置	
維持管理	地域住民、市民団体等との連携・協働による順応的管理	

4

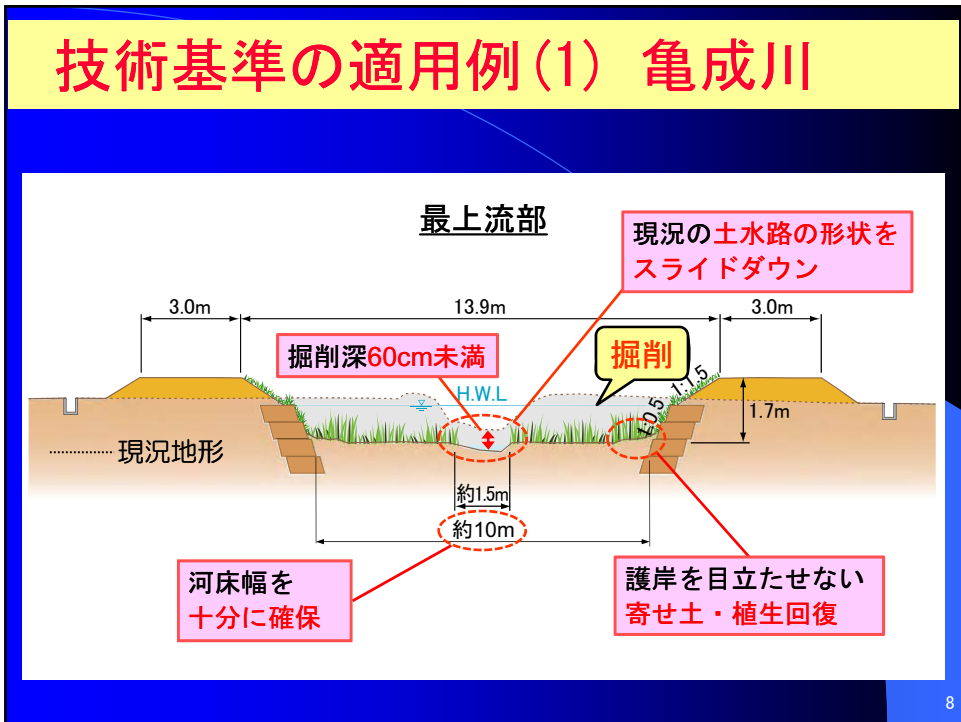
中小河川河道計画 技術基準のポイント（2）

基本的な考え方	・河岸・水際部が本来持つ河川景観及び自然環境面での機能が十分発揮されるように行う。
護岸設置の必要性	・護岸は 必要な箇所に限定 して設置 ・対象箇所の河岸域の河道特性を踏まえて必要性を判断
護岸の環境上の機能の確保	・のり肩・水際部に 植生を持つ ことが原則 ・直接人の目に触れる部分は 極力小さく する ・周辺と調和した 明度、彩度、テクスチャー を有する ・護岸ののり肩、水際線等の境界の処理は、目立たず 周囲と調和 ・生物の生息・生育場所の植生基盤となりうる 空隙 を持つ ・生物の生息・生育に適した 透水性・保水性 を持つ
水際部の環境上の機能の確保	・植生の基盤となる 土砂堆積を確保し水際部に変化を与える ・根固めはできるだけ露出しない高さ に設置
掘込河川の護岸のり	・環境上の貴重な空間となる天端のり肩にできる土羽空間の確保
CO ₂ 発生抑制	・現地発生材料を用いた工法の検討など CO₂発生抑制の観点に留意
河畔樹木	・良好な 河畔樹木の保全 ・ 河畔樹木の設置 の積極的な検討

5

技術基準の適用例(1) 亀成川





技術基準の適用例(2) 大津川



技術基準の適用例(2) 大津川

大津川17号橋付近

